

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和8年度 第1回入間市社会教育委員会議
開 催 日 時	令和8年5月13日(水) 午前10時開会 午前11時45分閉会
開 催 場 所	市庁舎 B棟5階 第4委員会室
議 長 氏 名	西村めぐみ
出席委員(者)氏名	増山宗隆 遠藤 誠 佐藤清美 濱中幸子 双木茂芳 西村めぐみ 齋藤勝久 村野裕子 宮嶋和子 白木賢信
欠席委員(者)氏名	小玉佳也 梅 裕晶 吉野 勝 吉田澄枝 田辺曉己
説明者の職氏名	大石社会教育課長、大久保博物館長、平岡図書館長、牧野社会教育課主幹
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(社会教育委員会議 すべて公開) 次第 委嘱状交付式 1 委員委嘱状交付 2 委員自己紹介 3 事務局紹介 社会教育委員会議 1 開会 2 社会教育委員会議の運営について 3 協議事項 (1) 社会教育関係団体補助金について (2) 社会教育関係の4計画の策定について 4 報告事項 (1) 各委員からの活動報告 (2) 社会教育担当各課からの報告 5 その他 6 閉 会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	0人
配 布 資 料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	浅見教育部長、増岡教育部次長、大石社会教育課長、 大久保博物館長、平岡図書館長、 牧野社会教育課主幹、林田社会教育課主任、黒澤社会教育課主事補、 大久保社会教育指導員、浅見社会教育指導員

会議録(2)

議事の概要(経過)・決定事項

- 1 浅見教育部長より、社会教育委員委嘱状を各委員へ交付した。
- 2 協議事項
 - (1) 社会教育関係団体補助金について 事務局 牧野主幹より説明
 - (2) 社会教育関係の4計画の策定について 事務局 大石課長、大久保館長、平岡館長、牧野主幹より説明
- 3 報告事項
 - (1) 各委員からの活動報告
 - (2) 教育部社会教育担当課からの報告
 - ①社会教育課 大石社会教育課長
 - (i) 報告事項
 - ・入間市地域学校協働活動推進員の委嘱について
 - (ii) 配付資料
 - ・令和8年度 出前講座メニュー一覧
 - ・令和8年度 いるま生涯学習ガイドブック
 - ・令和7年度 入間市生涯学習をすすめる市民の会活動報告書
 - ・「第28回 入間市写真連盟展」の案内はがき
 - ②博物館 大久保博物館長
 - (i) 報告事項
 - ・「狭山茶の日茶会」の実施について
 - ・入間市西洋館の日イベントの実施について
 - ・「夏休みこどもお茶大学」の実施について
 - (ii) 配付資料
 - ・ニュースアリット 第126号
 - ③図書館 平岡図書館長
 - (i) 報告事項
 - ・学校図書館ボランティア研修会の開催について
 - (ii) 配付資料
 - ・図書館だより4月号
- 4 その他 なし
- 5 閉会

会 議 録 (3)

発言者	発 言 内 容
西村議長 牧野主幹	協議事項(1) 社会教育関係団体補助金について、事務局より説明を願う。 (始めに資料の訂正があった。4ページの会議日程 第2回 8月7日(水)→8月7日(金)に、第4回 B棟5階→C棟5階に訂正。以後、資料に沿って説明。)
西村議長 齋藤委員	事務局から説明があったが、何か質問意見はあるか。 17番について、23万円から一気にゼロになっているが、辞退したということか。上の新久はやし保存会は辞退とあるが、ゼロと辞退は違うような感じだが。
大石課長	8年度は姉妹都市交流事業の予定がなくゼロ円となっている。辞退については、ルール上支給できて予算等の準備はするが、団体の方で、自分たちの資金で賄えるので市の補助は不要であるというような申し出があったところが辞退となるものである。
西村議長 大石課長	復活する可能性もあるということか。 9年度以降については、事業の状況によって復活する場合もある。また辞退された団体についても、やはり市の補助があった方が運営がうまくいくなど、考えを変えられた場合は、ルールの中で支給させていただく場合もあるかと考える。
西村議長	他にあるか。なければ、続いて、協議事項(2) 社会教育関係の4計画の策定について、事務局より説明を願う。
牧野主幹	(資料に沿って説明)
西村議長	事務局より説明があったが何かあるか。なければ続いて、資料5-2について事務局より説明を願う。
大石課長	(資料に沿って説明)
西村議長	一つ一つはわかることも文章にすると意味が違ってきたりすることがあるので、計画を言葉にするのは難しい。このいただいた意見を案にするのはどのようにするのか。
大石課長	こちらにいただいた意見については、前回4回目の会議で配った素案に照らし合わせを行って、事務局が素案の案に意見を反映させて、それを生涯学習推進計画については、関係各課に確認して意見交換を行う。また、生涯学習をすすめる市民の会にも見ていただき、生涯学習を展開する上で必要なことを落とし込んでいく。そうして練り上げて、ある程度整理がついたところで委員に見ていただき、素案と比べながら意見を伺う予定である。
西村議長	中々、個人の意見をすべて反映することは難しい、また、短い文章で表さなくてはいけないので、苦勞はわかる。でも、皆さんの意見は話していただいた方がよい。今でなくとも、後々意見をいただきたい。何かあるか。なければ、続いて、公民館基本計画について、事務局より説明を願う。
大石課長	(資料に沿って説明)
西村議長	公民館が市民からするとわかりにくいということ。もう一つが、公民館の協議会、サークルの方たちが集まる協議会の形をとっていた、と。
大石課長	補足をさせていただくと、公民館運営委員会が各地区の館にある。サークルで活動されている方が集まって、公民館での活動や利用について意見交換をする。その形だけだと、公民館の中の事業のことしか扱えないので、もっと広い範囲で地域づくりを行っていく、公民館運営委員会の形を見直すようにして、新しい地域のこと

発言者	発言内容
西村議長	を話し合うものを計画に歌っていくものである。
大石課長	そのことについて、今、皆さんの意見を伺うということでよいか。
村野委員	今日でなくても、今後、計画を練り込んでいく中で見ていただきながら、今、いただける部分とこれからいただくもの両方がある。
大石課長	上から3つ目が重要と思うが、素案に公民館の法的な位置づけというものがあるが、公民館をアピールするというのはどんなイメージなのか。
村野委員	地区センターという名前になったときに、公民館の看板はあるが、社会教育活動をどこでやっているのか、少しわかりにくくなってしまった。公民館の存在をいろいろな事業であったり、活動を広げていったりする中で、分かりやすく、強く言葉にしていく。法的な位置づけをあれこれ言っても、中々広まっていけない。事業の中でしっかり伝えるよう、取組を強化していきたい。
西村議長	本当にわかりにくくなってしまったと思う。地区センターになってすぐ、齋藤委員が「地区センターになっても公民館なんだよね」と最初に質問された。実際に使っている方もわかりにくい状態になっていて、公民館を使っていない人にはなおさらわからないと思うので、これはとても賛成である。ぜひ、進めてほしい。
大石課長	地区センターの中に公民館という名称はあるのか、ないのか。
西村議長	建物の名称としては、例えば、宮寺・二本木地区センターと書いてあって、その下に並列する形で宮寺公民館と書いてある。施設の前にある看板は並列になっている。ただ、包括支援センターなどは、表の看板ではなく、中の案内に書いてあるようである。
村野委員	他にあるか。
増山委員	下の二つもいいと思う。地域学校協働活動が公民館を中心にできたらいいなとずっと思っている。学校はどう考えているのか、聞きたい。
遠藤委員	地域学校協働活動を充実していきたいとは考えている。ただ、地域と学校をつなぐ役割のコーディネーターが難しい。地域差があるのではないかと感じている。学校としてはこういうことをしたいが協力していただけますかという投げかけをした時に、コーディネーターの方が、じゃあ誰誰さんに頼んでみようとか、こういう感じで協力できますよと教えていただいたり。逆に、地域のことがやりたいから子どもたちに参加してもらえないかという依頼があれば、子どもに投げかけていくなど、進めていきたいと思う。ただ、現状はどうしたらいいかと、手探り状態ではないかと個人的には考えている。
遠藤委員	武蔵中学校4年目だが、コーディネーターを見つけられと言われて、たまたま同級生の知り合いがいた。私はやりやすかったが、ただそれは巡りあわせであって、そうでない学校が多い。地域学校協働活動は管理職がけっこう動く。一般の教員が関わるのは難しい。長くいらればいいが、校長が変わったら終わってしまうのではしょうがないと、今、地域でも話している。おかげさまで、地域のネットワークのIDを作ったり、除草作業の手伝いについて流して募集したり、中学生の地域のボランティア活動でこれまで学校がやっていた取りまとめをしてもらって、そういう形はできている。でも、負担感を感じるような状況になってはいけないと考えている。継続できるような状況にするのは難しい。まだ、できていない地域も多いかなというのが私の感想である。

発言者	発言内容
齋藤委員	<p>じゃあ、どこがってなると、学校が主体になって考えないとできないと思う。我々は学校の中身ってよくわからない。いろいろ聞くと、学校の教育ってものすごく濃い。一年間決まっている。学校と地域が一緒になってやるが、我々も常に学校のことを考えているわけではない。学校こうなっているよ、こういう中でこういうことをやっていこうと、地域と一緒にできないかなという流れでないかと思う。そうなるには、常日頃交流する場を持ったり、あるいは気軽に学校に行ったりすること。我々がやったら、生徒もそれに反応してくれるような教育体系は、すごく大事なかなと思っている。我々が、例えばやって、子どもたちがそれに対して、そうか、じゃあ、もうちょっと地域に何かやってほしいなという主体性を持った地域学校活動をと。上藤沢中学校のお茶の管理だが、学校のだけ汚いねで終わってしまう。それをどうしていかってという考え方は、学校が主体になっていかないと中々できないと思う。私も、地域学校協働活動というのは、学校教育だとか、社会の家庭教育だとか、地域教育の中で、ウェイトが高いものかなと思う。中身がこういうふうには明記されることはすごくいいかなと思う。もうひとつ、これはもう個人の問題なので、センター長にはセンター長としてあるべき姿があって、やっぱりどうもとか、いやあと3年になると人が変わるだろうなんてこともたまに聞く。しょうがないことだが、今までセンター長が言っていたことに対して同じようなことを言うと、それはダメだとか、逆によくなったとか、そういうこともけっこうあるので、一律にというのは難しいが、我々地域からするとちょっとありますので、ぜひ、お願いしたい、というのは何だが。</p>
大石課長	<p>地域学校協働活動を進めていく中で、公民館職員の役割の重要性は、特に認識していて、今、お話しいただいたように、館長が変わったから自由にできないではなく、市の事業としてやるために、これまで以上に社会教育課と公民館の館長が集まる会議体などや、また、齋藤委員さんがおっしゃられたように学校の事情もよく分からないといけないので、学校教育課の指導主事の方々とも情報を共有しながら、どういう事業の組み立てがいいのかということと、それを地区センターの会議体で共有して、うまくいった事例をみんなで参考にするとか、次の世代に引き継ぐとか、市の課題として進めていく。それをはっきりさせるためにも、計画に歌い込みたいと考える。お話をいただき、その重要性は委員の皆様も認識いただいていることを改めて把握させていただいた。より分かりやすく、取り組みやすい言葉で計画を書くよう工夫をしていきたい。</p>
西村議長	<p>個人の力だけで組織を作って動かしていくのではなく、システムができていて、誰が来てもうまく動いていくような形になっていくのが一番よい。人が変わるとまた一からやり直してみたいなことを繰り返していると、たぶん進まない。そうではなくて、誰が館長になっても、校長先生が変わっても、同じように動いて行けるようになると思えば安心してお願いもできるし、顔が変わると無くなっちゃうということが無くなると思う。難しいが、そういうことを考えていけたらよい。では、次に博物館について説明を願う。</p>
大久保館長	<p>(資料に沿って説明)</p>
西村議長	<p>お茶の博物館は全国的にも珍しいのではないかな。</p>
大久保館長	<p>いくつか静岡や九州にもあるが、特産の狭山茶を扱って体系的に学べる博物館と</p>

発言者	発言内容
西村議長	<p>しては非常に珍しいものかと思う。</p> <p>多くの方に来館していただけたらありがたいが、川越で集まりがあった時に出てきたのが静岡茶だった。川越でも静岡茶と思ったが、一般的に考えると別にどこでもどのお茶でも同じと思われる方は多い。入間市に住んでいると何となく狭山茶というイメージがあるが、一般のお茶好きじゃない人にとっては、どれも同じように見えるのではないか。その辺をどうやって好きになってもらうか、そのアピールの仕方が難しいかと思う。</p>
齋藤委員	<p>お茶の話だが、NHKの地方版の報道などを見ても、狭山茶が狭山市になっている。狭山市のPRがすごいのか、入間市が足りないのかわからないが、市の名前と特産品がマッチしているのは事実だが、そうじゃないよという、何か工夫しながらメディアの方にPRをどんどんしなくちゃいけない。向こうから来るのを待っているのではなく、こっちから入間市と狭山茶をうまくドッキングさせたPR活動や情報発信をして欲しいという思いはある。</p>
大久保館長	<p>今の関係で、実際、NHKの放送局の方が、狭山市の方で放送するが、狭山茶について知りたいことを博物館に問い合わせてきた。本来なら狭山市の博物館に行くところを入間市の博物館に確認するというので、お茶の博物館としての認知度はあるのかなと思うので、そういう部分はアピールしていかないといけない。狭山市に取られてしまうというのは、入間市全体でのアピールの方法かなと思うので、産業振興課、あるいは秘書広報課といったところと連携して改善できればと思う。</p>
西村議長	<p>市を挙げてやれば、もしかしたら少しずつでも改良されるかもしれない。他の課にも声をかけてうまくいけばと思う。</p>
佐藤委員	<p>たまたま聞く機会があったが、昭和天皇から三代にわたって、作業試験場、今の作業研究所をご視察いただいたのが入間市である。</p>
西村議長	<p>みんなでアピールしないといけない。</p>
濱中委員	<p>紅茶が出てきたり、羊羹も狭山茶を使った羊羹を出したりしている。皆さん、いろいろと苦労して開発されている。</p>
双木委員	<p>狭山茶のペットボトルがないというのは、入間市では処分をどうしたらいいかというのもあるし、やっぱり茶葉を飲んでいただきたい、急須で。それが根本的なことだが、ペットボトルの方がいいと一生懸命やっている。子どもたちは急須さえないという家も増えている。いろんな話を聞きながら、急須で入れるとこういう味が出ますよということをインストラクターの方々と一緒に協力しながら進めていけばいいと思う。</p>
佐藤委員	<p>抹茶の関係から言うと、開発したらというが、開発にはものすごくお金がかかるから無理という意見もある。やっぱり、入間市が、博物館が一番だよというのを、こういう博物館の会議とか、役所の方の会議、プラスしてお茶の業者や、発信の上手い若者たちの意見も入れて、大プロジェクトみたいなのを、ぜひ、縦割りじゃなくて、役や仕事を超えて、みんなで意見を出し合って、狭山市に負けないぞキャンペーンみたいな大プロジェクトをやったらいいのになと思う。家での雑談で、若い世代からアピール下手だよねみたいな感じで、どうしてポケモン取られちゃったのと、宇治茶はシャバスっていうポケモンとコラボしているし、静岡もなんかやっている。所沢に聖地があるので、入間まで足を延ばしてもらって、そういう若者</p>

発言者	発言内容
	<p>が世界中に発信してもいいんじゃないかという、私には思いつかない若者の意見が出てきて、なるほどなど。やはり、世代とか、仕事とかを超えて、みんなで変えられる機会を博物館で考えていただければと思う。それができれば、我々、茶道連盟も大協力する。最近だと奈良市、世界遺産がいっぱいで太刀打ちできない部分もあるが、市を挙げて2週間くらいかけて町中でお茶会をするという。ここ2年くらい行っているが、大人気で、お茶をやっている人たち以外の人も行く高い茶会もある。お茶のまちとしてのアピールが上手いなと感じた。宇治については歴史が違うので比べて考えない方がいいと思う。</p>
大久保館長	<p>貴重な意見に感謝する。博物館だけで取り組めないところも、皆さんの力も借りながら、ぜひ、何らかのPRができる形で考えていければと思う。</p>
西村議長	<p>続いて、図書館について、事務局から説明願う。</p>
平岡館長	<p>(資料に沿って説明)</p>
西村議長	<p>居場所としての図書館は、子どもではなく大人と考えてよいか。</p>
平岡館長	<p>もちろん、子どももだが、今、サード・プレイスという考えがいろいろな図書館で歌われている。居場所として、図書館が活用されるのではないかと、次回の計画には盛り込んでいきたいと考えている。</p>
西村議長	<p>図書館は静かにしているイメージが強く、飲食がしづらいところがネックになるかと思うが、これについてはどうか。</p>
平岡館長	<p>図書館の中の飲食だが、飲み物については図書館内の指定した場所であれば可となっている。熱中症対策等もあるので、本を読みながらペットボトルや水筒など蓋のついているもの可としている。本館については、休憩室が設置してあり、そこでの飲食を可としている。</p>
西村議長	<p>他の図書館は公民館と一緒にだが、</p>
平岡館長	<p>藤沢金子は公民館に併設していて、ロビー等で休憩しながら、図書館で受験勉強や本を読んでいる学生の方も多岐状況である。</p>
西村議長	<p>図書館についてはよろしいか。全体的なことについて意見はあるか。なければ計画の策定について事務局から説明を願う。</p>
牧野主任	<p>(資料に沿って説明)</p>
西村議長	<p>生涯学習推進会議とは、公民館、博物館、図書館の素案を集めてということではない、全く別の形として出てくるということか。</p>
牧野主任	<p>そうである。生涯学習推進会議とは、公民館基本計画、博物館基本計画、図書館基本計画を審議する審議会や協議会のようなもので、庁内の関係者、担当者や生涯学習をすすめる市民の会の委員で構成される会議である。その会議で生涯学習推進計画について協議する形をとっている。社会教育基本計画に関する4つの会議の内の一つが生涯学習推進会議という会議体の下にいる生涯学習推進計画策定ワーキングチームというプロジェクトチームみたいなものである。</p>
白木委員	<p>3年前、静岡にいた。静岡もお茶の飲用率が低い。同じような問題を抱えていて、例えば何をやっているかということ、教育、ここでいう教育振興基本計画レベルで、郷土の地場産のものをたしなむような機会を推進する方針の一つとしてお茶の飲料をたしなむとしている。それを学校現場や社会教育の様々なところでお茶を出すようにしている。それが上手く行っているかわからないが、そうやっている。行政</p>

発言者	発言内容
浅見部長	<p>計画というのは階層性を持っている。博物館基本計画は、博物館の運営現場の今年の計画であるから、前提というか、根拠になるところでは、やはり教育振興基本計画があるので、そこにお茶を飲むとは書けないかもしれないが、地場産のことについての学習を推進するというような項目を一つでも加えてもらえると、方策としてお茶をたしなむというのがやりやすくなり、計画とうまくつながっていくと思う。併せて、生涯学習推進計画、昔の社会教育計画だと思うが、教育じゃないところでもある。首長部局も含め、いろいろな情報を取り入れた計画を立てた方が現実的になるだろうとは個人的に思う。もうこういう仕立てになっているので、運びはそうなるだろうが、現実的には学習は教育現場だけではないところでも行われている。そういういろんなところの意見を貰うとより現実的になるかと思う。</p> <p>生涯学習については、おっしゃる通り横断的な取組でもあり、ワーキングチーム等については、教育委員会だけでなく、いろんな分野の委員が入って計画している。静岡の件、感謝する。入間市でも狭山茶と触れ合うということで学校の授業で取り組んでいる。中学校だが、盆手前という生徒一人一人が自分でお茶を入れられるようするというもので、これは引き続き教育振興基本計画に位置付けたいと思っている。当然その下での博物館の役割もあり、学校教育、あるいは社会教育の中で、博物館がお茶の振興についてどういった取組ができるか、お茶大学等引き続きやっていきたい。先ほど、狭山茶のアピールが足りないというところ、我々も努力してきたところではあるが、うまくいってないところがたぶんある。博物館で20、30年前にお茶大学という、狭山茶のアピールのために入れて、市外の方が圧倒的に多いが、入間市で狭山茶をアピールしていることが伝わるようにこんな取組もしている。ずっと取り組んでいると、茶業だけで市のアピールをするというのは、中々できない。先ほど奈良の事例もあげていただいたが、やはり文化というものが一緒に合わさっていないと海外にアピールするのは難しいということはずっと実感している。その中で、博物館の役割とは、茶業だけではなく、文化の歴史といったことも含めてアピールできる施設でもあり、そういったことを今後もやり続けるしかないと思うので、アイデアをどんどんいただければさらに改善していきたいと思うのでよろしく願う。</p>
西村議長	<p>他にあるか。なければこれで協議事項を終了する。続いて、報告事項(1)各委員からの活動報告を願う。</p>
村野委員	<p>子ども食堂ネットワークいるまの会長をしている。新しいパンフレットをお配りしたのでご覧いただきたい。今年度は、KUROKO プロジェクトは、全小中学校に加えて、高等学校にも置かせていただいている。市からの補助金をいただいたので、食品と一緒にお子様の手に渡ることも支援課につながる相談窓口のカードをつけさせていただいた。ご支援、ご協力に感謝する。</p>
宮嶋委員	<p>文芸入間だが、今年も募集がある。48号では、114人が応募いただき、作品が455点、掲載が423点だった。博物館が去年30年になったということで、47号にアリットの歴史を書いていただいた。今年出た48号では31年目のアリットとして、2年間歴史がかかっている。これを見ていただくと、けっこうアリットの歴史がわかると思う。文芸員さんのご苦勞も全部書かれている。アリットのことを皆さんに伝えていただくとありがたい。文芸入間の締め切りは8月31日な</p>

発言者	発言内容
双木委員	<p>のでよろしく願う。</p> <p>昨年一年間第3水曜日にeスポーツとボッチャ競技をやったが、これは各地区で老人会が無くなってしまった、自治会が入っていない、そういった人たちを対象に行い、延べ千五百人の方が利用いただいた。今年度も実施するが、毎週水曜日午前中に、一番小さなお子様で3歳の子をご両親が連れてきてeスポーツをさせている。あとは自治会に入っていない方が多かった。そういった方々をいかに呼び寄せるかというのもポイントかなと。自治会に入っていないと、いろんな広報がない。公民館に来てくれることによって、そこに並んでいる募集要項の大会に申し込むのが便利である。もう一点は、5月から10月に、どこでもいいから歩こうよ、50万歩、100万歩。100万歩歩くと名古屋。一番多かった方が123万歩。というふうに自然と歩いて、自然の感動の中で活動できるというのを、コーディネーターさんとスポーツ協会さんの都合でさせていただいていた。あとは夏休みに学校の不登校の子どもたちも交えられればいいなというのが自分の考えである。</p>
西村議長 大石課長	<p>続いて、報告事項(2)教育部社会教育担当各課から報告を願う。</p> <p>入間市地域学校協働活動推進員の委嘱について、先ほどから地域学校協働活動について意見をいただいたが、毎年全中学校区に推進員を委嘱させていただいており、今年度は5月に委嘱状交付式及び研修会を行う予定である。配布資料は4点あり、1点目が令和8年度出前講座メニュー一覧、市の職員が講師として出かけているいろいろなお話をさせていただくもので、お知り合いでこんな研修をしてみたいとか、こんな話を聞きたいというのがあれば活用願いたい。2点目、いるま生涯学習ガイドブックはNPOとか、社会教育団体とか、様々な方に向けて行っている講座や教室の情報である。5月から10月の上半期分で、ぜひ申し込んでいただきたい。3点目が生涯学習をすすめる市民の会活動報告書である。先ほど生涯学習推進計画を作成する際、市民の方と協議させていただいていると述べたが、入間市の生涯学習をすすめるために、行政と対になって活動されている方々があって、その活動の報告書である。最後にはがき、第28回入間市写真連盟展、入間市写真連盟と入間市教育委員会の共催で、博物館で写真展を開催している。ぜひ足をお運びいただきたい。</p>
大久保館長	<p>狭山茶の日茶会について、6月7日が狭山茶の日で、その日に記念の茶会を実施する。今年は、席主に不白流の吉田宗芳先生を迎え、佐藤委員さんにも協力いただくということで予定している。3席用意しているが、すでに午前の1席目はかなり満席に近い状態である。2席、3席目は余裕があるので参加いただきたい。次に、入間市西洋館の日のイベントについて、毎年7月7日を西洋館の日としてイベントを実施している。今年度は、公開日にあたって観覧料を無料、ふだん入れない貴賓室を公開とする。夏休み子どもお茶大学について、成人向けのお茶大学に対して、夏休みの期間に小学生中学生を対象に3日間開催する。申し込み期間はこの後なので、ぜひPRを願う。最後に少し遅れたが、4月1日発行のニュースアリット126号をお配りした。ご覧いただきたい。</p>
平岡館長	<p>学校図書館ボランティア研修会について、各小中学校には学校図書館のボランティアをしてくださっている方々がいて、その方を対象に、図書館から本の修理、読み聞かせについての講座を行う。小中学校を通じて募集し、6月に実施予定である。</p>

発言者	発言内容
西村議長	<p>このような事業を通して、学校と連携し、子どもの読書活動の推進に努めて参りたい。図書館だより4月号を配布したのでお読みいただきたい。</p> <p>これらの報告について何かあるか。</p> <p>他にあるか。なければ、これをもって協議・報告を終了する。ご協力に感謝する。</p> <p style="text-align: right;">以下、余白</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">令和8年 5 月 28 日</p> <p style="text-align: center;">議長の署名 西村 めぐみ</p>	